

2007 年 10 月 18 日  
18:00~20:00  
前原暫定集会施設 A 会議室

第 2 回（仮称）小金井市芸術文化振興計画策定委員会  
[議事録]

次第

- 1.（仮称）小金井市芸術文化振興計画についての自由討議
2. その他（連絡事項等）

[計画策定委員]

- ・ 大久保広晴委員 =出席
- ・ 大澤国栄委員 =出席
- ・ 久保みどり副委員長 =出席
- ・ 池口葉子委員 =出席
- ・ 田川尚子委員 =出席
- ・ 中野昌子委員 =出席
- ・ 増田章夫委員 =出席
- ・ 斎藤浩委員 =出席
- ・ 田中敬文委員長 =出席
- ・ 久保田美穂委員 =出席

[事務局]

- ・ コミュニティ文化課長
- ・ 文化施設開設担当課長補佐
- ・ コミュニティ文化課文化推進係長
- ・ 東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻小林真理研究室

### **田中委員長**

本日はみなさまお忙しいところありがとうございました。第二回の（仮称）小金井市芸術文化振興計画策定委員会をはじめさせていただきます。はじめに、前回ご欠席の委員に課長さんから委嘱状をお願いします。

コミュニティ文化課長より齋藤浩委員への委嘱状交付。

### **田中委員長**

齋藤さん簡単に自己紹介を。

### **齋藤浩委員自己紹介**

#### **齋藤委員**

武蔵小金井駅の南口のアーケードの商店街があります。再開発でがらがら壊しているところ。そちらの商店会の会長をやっているのです。お役目が回ってきたかなという感じなのです。和菓子ということで、商工会のほうからも「季節感を出してやれ」ということかでしょうか。個人的には芸術とか高尚なことには一切かかわってなくて、団子を作ったり饅頭作ったりという毎日ですので、あまり高尚なところを楽しんでという感じではないです。けれども地域の振興という意味では今後、考え方として必要になってくるだろうと思います。商店街の中の地域振興という面で文化とか商業とをどういう風に結び付けてやっていくか、という議論は、飲みながらやっているのです。商業者の立場から見たというところでやらせていただければ、参考にして、商業のほうに持っていけるかなと思います。よろしくをお願いします。

## **1.（仮称）小金井市芸術文化振興計画についての自由討議**

### **田中委員長**

今日は宿題が二つありました。ひとつは第一回の議事録を確認していただき、ご自分の発言を修正したものをもってくるということでしたが、持ってきていただけたでしょうか。それから2番目の宿題は今日のフリートークのために書いたものをもってくる。書いていただいたものは今、印刷をして皆さんに配りたいということですので、それができてからお話しいただきたいと思います。

実は今日、この委員会二つやりたいことがあります。ひとつは皆さんに考えてきたいいただいたフリートーク。この小金井市芸術文化振興計画を策定するにあたって、特に芸術文化でこんなことがやりたい、できたらなということ。今日の段階ではみなさんの「夢」を自由に語っていただきたい。まずはそういった「夢」がないと細かなお話がなかなかできないだろうと思います。今日のお話はほんとに実現できるかどうかわからないものもある

かもしれませんが、夢を語っていただきたい。それから今日の会議の内容の二番目はアンケート調査について。これは小金井市民を対象にして芸術文化振興計画を策定するにあたって、どのような意向をお持ちかということ調査させていただきたいと思います。こういう項目でやりたいなというアンケートを用意しているので、皆さんにアンケートを実際にやっていただく。次にそのアンケートをやってみた問題点、感想を指摘していただきたい。アンケートをやってみますと、ここはよくわからない、難しいというところが出てきます。それを市民の立場で議論していただきたいと思っております。

みなさま、条例お持ちでしょうか。おそらく夢を語っていただくにあたってこの条例をご覧になっていただいた方も多いたと思いますが、私たちはこの条例に従って芸術文化振興計画を作っていく使命を帯びています。

それでは、おひとり5分以内でお話ししていただきたいと思います。その後で質疑応答とか補足ができればと思います。ある方がお話ししたことは別の方も出てくるかもしれませんが、とりあえずやってみたいと思います。

まず、田中から失礼します。勝手にカレンダーを作らせていただきました。こんなことができればいいなということで、201X年の芸術文化カレンダーです。カレンダー抜粋となっていて、365日作ればよかったのですが、時間の関係で今日持ってきたのはこれだけです。空いているところは皆様方で勝手に埋めていただければと思います。芸術文化のいろんな分野、活動団体も子供から高齢者まで書いたつもりですが、いろいろ抜けているところもあります。いちいち読んでいって時間がなくなってしまいますので、ざっと見ていただければと思います。要点は何かといいますと、まずはやはり場所がほしい、ということです。1月をご覧いただくとわかるのですが、ニューイヤーコンサート。小金井市民総動員でニューイヤーコンサートをやりたいということなのですが、たとえば小金井市民合唱団が中心になって、こどもたち、高齢者、障がい者、バレエ団等出ていただいて、やっぱり会場は、みんなが集まるような芸術文化センター。1月だけではなくて2月、月によってはたとえば3月は二つ行事を入れていますが、だいたい芸術文化センターでやることを想定しています。201X年ですので、まだ少し先の話ですが、場所がないと音楽をやるにも演劇をやるにも難しいんじゃないかなという感じがしました。もちろん芸術文化だけに限っていません。3月は商工会が中心になって桜祭りをやりますが、それはさすがに小金井公園でやります。その上のほうに3月、市民活動団体見本市ということで、市内にあるNPO法人、これは芸術文化に限ったものではない、市民団体が一堂に会して、昨年一年間こういう活動をした、来年はこういう活動をしたい、ということがわかるような見本市をやりたいなと思っているところなんです。こういう風にしてやると、仮に建物を建てるにしても、それほど建物の空きがなくいろんな形で使えるだろうと思います。講演会のようなこともできます。たとえば5月は新緑の講演会。市内在住の各種著名人、いろんな方がいらっしゃいます。実際には先週の金曜ありましたように、講演会の形でお話いただきます。新緑の講演会だけじゃなくて、夏の講演会、秋の講演会、冬の講演会があってもいいです

ね。ここでは市民以外の人は一応入っていないのです。全部市民がやることを想定しています。場合によっては、市外から著名な人、海外から著名な音楽家を呼んでコンサートやることも可能だと思いますが、今回それは入れていません。4月は諸学校合同入学式があります。これから少子高齢化が進みますと、1校ずつ新入生歓迎会、入学式をやることは難しくなるかもしれない。そういうとき、市内の小学校、中学校全部集まってやることは活気を維持するという点でも重要ではないかと思えます。

4月には、合同入学式の下に、芸術文化評価委員会というのがあります。条例では想定されてないのですが、文化振興計画を作っていたら、計画に沿って活動するわけですから、それを評価する必要があります。果たしてそういう活動をやってよかったかどうか。改善すべき点はないかどうか。評価委員会をできれば作って、評価の指標をつくって、通知表とは違いますから、5, 4, 3, 2, 1というわけにはいかないかもしれませんが、何らかの目印を使って評価をして、それをこの年度の活動に生かしていくこともやりたいと思います。それはこの会議室や芸術文化センターの会議室でやりたいなと思っています。このカレンダー、空いているところは皆さんに入れていただきたい、案を出していただきたいと思えます。主役はあくまで市民、広い意味で市民であり、場所は芸術文化センターを使ってやりたいなと言うことです。これでちょうど5分です。

皆さん意見あると思えますが、一通りご意見伺ってからの方がいいと思えますので、副委員長お願いします。

#### 久保副委員長

市民ホール、芸術文化センターができるということで、そこをどんどん利用して、市民がいいコンサートを聴けるようになればいいなということが一番祈っています。

今週八王子にピアノのコンサートに行って、そのことも書いてあります。八王子はすごくホールがあり、大学も多いです。その時に頂いたチラシがこれで、ありとあらゆる分野の芸術がたくさんつまっていて、ホールがいっぱいあるので、そんなにできるのだなと。文化ふれあい財団というところが中心になってやっているようです。小金井はまず一つホールができるかなというところですので、ここまで行かないかなと思います。私が行ったいちょうホールというところは素晴らしいホールで、音響もピアノの音も素晴らしい。これがそのときのプログラムなのですが、後ろに協賛で病院の名前がいくつか入っているのです。どういつながりでこういうところが協賛してくれるか分からないです。芸術をやっている人とか楽器店だけではなくて、小金井市の中の、亀屋さんでも、芸術を理解して頂いて、協賛しますというパイプをどうやって作っていったらいいか私には分からないのですが、市民ぐるみで取り組んでいけて、みんなが小金井市の芸術が芸術どんなことやっているのか分かるようになるといいなと思いました。すごくチラシもきれいだったし。こういうものが街中であって、今月これ見に行きたいなとすぐ手にとってわかるようなものがあればいいなと思います。

この中で大沢の八王子のホールにはアマチュアバンドがたくさん入っているんです。そこで一度アマチュアバンドのコンサートみたいなもの、学生から社会人までバンドをやっている仲間は誰でも出ていいですよってやったのを見に行ったことがあります。動いていたのは大学生がほとんどで、後は大学の教授が中心になって、すごくいい会で。ホールといってもいす席です。平面のところだったので、そういう場にすごく適していたのです。いすに座って静かに聴くものではなかったのですけれど。大学も小金井もありますのでそういうところでパイプを作っていけたらいいなと思います。こちらのカレンダーに邦楽も出てきたのですが、うちは子供が小金井第一小出身です。一小はすごく邦楽が盛んで、山内先生という方が力を入れていて、みんな琴や三味線がはじけるのです。貫井囃子の方もいらっしゃるし、薪能もありますし、邦楽のまちということで何か取り組んでいけたらいいなと漠然と思っています。

駅前がどのような広場になればいいかわからないのですが、井の頭公園のように、パフォーマンスとかできる状況になるかわからないのですが、以前井の頭公園で弦楽四重奏とかやっているグループもいます。八王子、立川は結構駅前で若者が歌ったり踊ったりしていて、横にそれたら、ちょっと危ないというか、困るのですが、目の前に交番があってくれたらいいなという感じです。治安の面というか、変な方に若者のエネルギーが行ってしまいがちなのは心配ですが。高校の文化祭に行っても、今の高校生はだらしのないみたいな感じですが、パワーもあって、エネルギーもあって、ダンスやら歌やらに取り組んでいて、素晴らしいものをもっています。若者に限らずちょっとパフォーマンスをできる場所ができたらいいなと思いました。

#### **田中委員長**

ちょうど5分でいい感じでした。こういう感じ、で気楽にお話いただければ。みなさんどうぞお菓子を召し上がりながら。

#### **久保田委員**

具体的な分野というよりも、突出した何かというよりは、小金井市全体の文化とか芸術とか環境の取り組みの底上げと言うか、全体がパワーアップしたほうがいいという話かなと理解している。場が欲しいという意見もたくさんあったのですが、私は場と言うのが一つのホールとか建物じゃなくて、できればまち全体がフィールドになるような発想があったら面白いかなと思います。まち全体というのは、今の状況をアピールしただけのまちではなく、歴史があったり過ごしてきた時間があったり、いろいろつながりがあるなかでまちは成り立っていると思いますので、時系列的なものも含めた意味で、フィールドがあるといいなと思います。

この中にはもちろん、いわゆるファインアートとか、絵を描くとか、音楽をするというのもあります。まちの中にいろんな資源、資産が小金井市にも色々あると思います。自然

環境もそうですし、公園みたいなもの大きな資源だと思いますし、けやきの木一本もまちにとってはすごく大きな資源だということもあります。そういうものを広く捉えて、フィールド。ミュージアムというか、みんなが関わったり見たりして、そこから新しい取り組みが触発されるような意味でのミュージアムということになっていったら楽しいなと思います。

その次に「アップデート」と書いたのですが、やはり市民がやろうということなので、「トライ アンド エラー」というか、やりながら考えようということをごっかに残しておいてほしいなと。1年間のスケジュールも、10年のスケジュールももちろん大事なのですが、やってみてまた新しくチャレンジしようというようなことが許される、そのくらいの幅の広さ、懐の深さがあるといいなと思います。それはちょっと大げさなのですが、非中央集権的というところと重なるのですが、行政がリーダーシップをとってやろうよという、ある種力なりお金が一点に集中しているというのは、今みたいな時代は怖いという感じがするので、できるだけ力とか場所とかお金が偏在、分散して「こっちがだめならこっち」と、いろんな意見や多様性が常に担保される状態だったらいいなと思います。

「セルフヘルプ」はそれに重なるのですが、市民がやるということで、自助努力といいますが、自分でもやろうよと。お膳立てしてくれるのを待っているのではなく、自分でもやってみようよということ。いろんな人たちと助け合ってやろうという状況が生まれればいいなということです。

細く長くというのはそれにもかかわるのですが、「トライ アンド エラー」もそうですが、最初スタート時点は元気だし、活気もあるし希望もあるが、運動の仕組みとかソフトの部分はやり続けさえすればいいということではないが、ある時に続けることが困難になるということがある。それをうまく乗り越えていけるような知恵や人との集まりだったり、力の合わせ方みたいなものがあるといいなと思います。場所とか具体的な分野の話ではなくて、ちょっと抽象的ですが、どんな風な未来だったらいいかなと考えてみました。こんな風な意味合いがあったらいいなと考えました。

#### **田中委員長**

では齋藤さんいかがでしょうか。

#### **齋藤委員**

芸術文化という、全体の議論がよくわからなかったので、こういうことでいいのかなと思ったのですが、いくつか考える軸。誰がいつどこで何をやるのだろう。その規模もある。いつやるかについては、毎日やる、イベント的に二年に一回やる、定期的第一水曜日やる、月一だとか、というケースが考えられる。

どこでという意味では、専用スペースというのが、先ほど議論にでていた市民ホールということになるのだと思います。公の場として。場所として、あと公園。私的なスペースと

しては個人のお庭、農地、キウイ畑とか、そういうところでコンサートができればすごくいいなと。知り合いがオリーブガーデンの花を飾っているところでチェロのコンサートを。聴く人が20-30人でとってもいい雰囲気。個人の庭を借りるだけで結構いい雰囲気になっている。やろうと思えばできる。それを仕掛けていくのはなかなか個人の器量を問われるのですが。そういう意味で、ちょっとしたところがあれば、個人がやろうと思えばできる。まちかどということで、商店街の人とお話をするのは、商店といのは表のガラスのところ飾っている店もあり、飾ってない店もある。長野の有名なお寺の門前まちではまちかど美術館という形でお店のワンコーナーを少しずつ使って、昔からのレジとか、道具をちょっとずつ飾りながら、それをみんなが見ながら参道歩けるようになっている。

場所は、先ほど言われたように、まちのあちこちに協力してもらえるところがあれば、展示するものであればそういうところでも展示していく。うちの店なんかであれば、一部の壁を展示の壁にして、ギャラリー兼お店にしてやれるお店もあるかもしれない。場所という意味ではそういう場所が考えられるのではないか。

誰がやるのかという意味では、大きなもので市が文化施設作ったりということになるし、個人の範囲では自分の庭でということになる。何をということでは、絵だとか彫刻とかは見つて喜ぶ。音楽のように聴くもの、映像だと、映画祭とかある設備が整っていないと難しいものがある。こんなものを小金井のまちの中にどのように規模だとか、タイミングとかを計りながら、小さいものから大きなものまで、年間を通じて楽しめるようにすること。

持続の可能性としてはコストとか、人的労力とか、収益性というのを考える場合と考えない場合。それと情報をどう発信していくか。インターネットの時代ですのでHPということもあるでしょう。その下は、規模の大きなものから小さいものまでということ。真中が「商」となっていますが、一番大きなものは小金井公園のジャズフェスティバルですとか。すこし規模が小さくなると、市民ホールでのコンサートをやるとか。商業としては、ライブのお店とかがあれば、毎日楽しむことには、お金を出して楽しむ。

私的なものとしては庭先だとか、室内解放してやることもできますね。金蔵院なんかは展覧会やられていますよね。お寺とかで展覧会があると雰囲気がいい。あとは阿波踊り、桜祭りなどいろんなものがある。

右側はどちらかと言うと見て楽しむもの。今はあまりないが、「小金井ナントカ祭」とか、カンヌ映画祭のイメージで、もしもあれば面白いな。美術館ははげの森美術館とか専門の美術館がありますので、そういう展示なんかも。カフェとか、ギャラリー展示会とか、ギャラリーと併設して、お茶を飲んだりとか飲食ができたり。寺子屋さんなんかもそういうのをやってもらおうと、食事をしながら楽しめていいなと。

商業がからむと当然採算性ということが出てくる。場所がある程度毎日楽しめる、お金を払えば毎日楽しめるということで、採算が乗れば資金が出るのではないか。

「私」というところではまちかど美術館。店頭や個人の店の庭先がお花でとてもきれいに

飾られたり、生垣を増やそうとか。そういうもので一時期そろったまち並みというものも。今なくなっちゃったけど、花がたくさん咲いて、マンションになっちゃったところで、みんな写真撮りに行って。ああいうようなので、ある一部分を。みんなで種投げちゃおうかという話もあったのですが、そういう一面あるものであったら面白いかなと。「私」の農地だとか、いろんなどころでも面白いかなと。小さなところから大きなものまで、どんなものがあるかなということを書いてみました。

#### 田中委員長

どうもありがとうございました。では増田さん。

#### 増田委員

私の話ですが、文化団体の代表ということで出ていますが、どちらかというと現実についても追われていまして、なかなか夢の持てない状況にあるのです。一つ夢は芸術文化センターをつくるということ。これはもう10年来取り組んでいますので、かなり形はできている。こういう会議で施設がどんなものなのか。使い勝手がかわってきますので。こないだ会議の後に提案しましたが、かなりもう具体的にはできている。建築確認を取っているような段階ですから、大幅な確認はほとんどない。是非みなさんに一度見ていただきたい。どういう構造でできて、駅前がどういう風になるのか。こういう今の現状を踏まえるともう少し大きく、夢も具体的にふくらんでいくのではないかな。

広場ができるのですね。駅前に2000平米弱の。そこは非常に多目的に使えるのではないかな。私どもはなかなか発表の場がないということで活動していますが、なんとか早く駅前の市民交流センターを実現させようということが、十年來の夢です。それは夢としては外せない。夢じゃなくて現実に外せない。

それから市民交流センターの検討委員会の時にもこういう話が何度も出た。小金井の特徴といえば、ひとつは環境。それからはけの森美術館。環境とアートをどうコラボレーションしていくか、これは小金井じゃなければできないところがたくさんあると思います。現実にも、今お話にあった市民まつりですとか桜まつりですとか、たてもの園使わせて頂いてやったり。生け花とか具体的には結構あるんですけど、そういうものをもっと有効に活用できれば。

それから大学がたくさんあるので、大学と連携を取った形で何かできないか。最近、大学は国立行政法人になってから開放的になっていまして、学芸大学もお花見になると、夜はライトアップしていたり。学生さんも含めて大学との連携もやれば可能性は非常に広がってくるのではないかなと思います。

もうひとつは小金井のお子さん。芸術文化の面でなかなか優秀なのでね。音楽関係は、先ほどの第一小など、全国レベルの大会にもどんどん出ている。緑中は日本一になったこともある。お子さんたちの文化活動、夢を育てていくことも必要ではないかな。緑中の関係で



すが、6、7年くらい前、斎藤先生という方が、今は変わりましたが、そのOBたちが「合唱団翠」という。一緒に演奏会の裏方をやったりして、若い芽も育てていくことも非常に大事。

それから、郷土芸能が結構あるのですよね。こういうものももっと市民の皆さんにやっていただきたい。郷土芸能祭りという。よそにはありますが、小金井にはない。小金井はいろいろ活動しているのですけれど非常にばらばらというか、集中的にやる文化イベントがほとんどない。今活動しているのは公民館やセンターであったり、福祉会館も使う。個々の施設ごとのお祭りはあるのですけれど、全体のおまつりはない。ばらばらにやっているのです非常に目立たない。同じようなことをあちこちでやっている。それにまた市民祭りがあったり、文化協会は市民芸術祭をまた別にやったり。色々イベントはあるんですが、ばらばらで統一性がない。ひとつは施設がなかったということが大きな要因だと思います。そういうものをひとつにまとめた形でやれば、市民の目も集まりますし、まちの振興にもなるということも考えてやってほしい。

もうひとつは情報ですね。文化芸術や生涯学習もそうですが、どこか集約できる場所があった方がいい。今は市報だけばらばらに押し出しているだけ。市報を読んでない人が圧倒的に多いので、お客さんとののは非常に大変、掲示板でもさほど効果がない。十年来やっていますけど。情報が、ここに行けば全てわかるセンターというようなものをまとめて、そこで活動したい人はやる。文化芸術、生涯学習の情報センターみたいなものを今度できる新しい施設の中に是非入れたいなと思うんです。先ほどの八王子のチラシ、府中でも小平でも出しています。新聞折り込みではこの辺では小平、府中なんかが入ってきます。ホール持っているところは情報の発信やっていますが、小金井はまったくない。新しく文化施設ができた時に、今までは市の財団がほとんど運営してしまっていて、それが今受け皿になってやっている。もともとは行政のほうが中心となっているような活動。三鷹もそうだが。小金井は運営がどうかかわってくるかということも、心のどこかに留めておいて、議論した方がいい場合も出てくるのではないかと思います。

#### **田中委員長**

どうもありがとうございました。それでは中野さんいかがでしょうか。

#### **中野委員**

私は皆さんがこんな大きな発表していただいたのですが、子どものことしか考えてなかったものですから。子どもに継承ができればいいなということが頭にあったものですから、子供の伝統文化教室みたいなものがコミュニティの小さな会でできるかなと。そのなかで音楽やお茶や舞踊だとかを勉強しながら、子どもたちに伝統の文化を継承して育てていければいいなという軽い、小さな気持ちでしたので、恥ずかしくてしょうがないです。皆さんから聞いたら、だいぶ大きなイベントを考えていらっしゃるって。私はイベントというよ

り、子どもたちをこういう風に育てたいなという頭の方が大きかったものですから。小金井市にもたくさんの優秀な先生方がいらっしゃるんで、その方が連合体を作って、子どもたちと協力してね。それを市が主体になって、皆さんがやったものを発表できる場があったらいいな、というような小さな気持ちでいたもので。

それはそうとして、今増田さんがおっしゃった、公民館、福祉会館個々に祭りはやっているのですが。見に行きますと、一生懸命勉強したものを発表してくださる。これが一同に集まってやる場所があったらいいなと私も常々思っていました。

それから中学生の合唱コンクールなんか見ても、素晴らしい音楽を聞かせてくれる。しかし小金井では、他の公会堂やなんかへ行って発表されていますよね。ああいうのが小金井にできれば、それも可能かなと思います。私も勉強してこれからもう少し大きく考えるようにしていきます。

#### 田中委員長

それでは田川さん。

#### 田川委員

私もイメージとか夢とかにこだわって、具体的にはイベントの企画などはしていません。夢としては、みなさんが文化ホール、コミュニティーホールが存在していて、それをどうしたらいいかという観点に立っているのに、私は多目的ホールの構造でもいいですから、常設美術館があり、演芸ホールがあり、舞踊・古典芸能ホールがあり、薪能もあるので能舞台もあったらいいなと。また、文化を享受するだけでなく「育てる」ということもこれからの子供たちに対する責任ではないかと思えます。市民参加の発表の場、学びの場も総合的な文化ホールでできたらいいなと思う。

先日、金曜に絵描きの先生のお話を伺いました。日本では鑑賞する方は多いが、クリエイティブな人間は少なくなっているというお話でした。ですから、小学生のころから、いいものを。いいものが何かという問題はここでは書かなかったのですが。絵画、彫刻などを鑑賞する場を多くもって、感性を引き出す場を設けたらいいなと。

齋藤委員さんがおっしゃったように、中身でなく外観としても、小金井というまちを、緑はあるので、花のあるまちにと前から思っていました。公園だけでなく商店街や道路、そして一軒一軒がだんだん花いっぱいになっていくイメージがあります。

こんなまちになったらいいなという希望ですが、これもちょっと具体的になりましたが、地域の企業、大学、商店の方とか、芸術家、学生なんかを密接に連携を図って市民が芸術文化に親しむ環境を整備していくということです。商店街の方に協賛していただくとか、ノウハウを大学のコミュニティーセンター科の学生さんと一緒にやるとか。そういった、まず芸術文化の環境を整備したらどうかということ。

あと都立の小金井公園に、小金井のこととか伝統文化、生活、歴史の展示体験ゾーンとか

あります。これはあくまでも「都立」小金井公園で、「小金井市立」のゾーンと何かリンクして、観光地としての整備をしたらどうかと思います。もっと細かく具体的にあげると、一般市民がそこに行けば常にいろんなものが見れるというギャラリー、コーラスや楽器の演奏のための小ホールを中心地、駅から近い所に。丸ビルとか東京駅のコンサートとかみたいに、お昼でもいつでもできるものがあればいいなと思います。

そういうのを運営したりするのにボランティアとして企業に場所を借りたり、土地を借りる。それは長期的ではなくて、その場でギャラリーにしていく、融通してもらうとか。説明とかいわゆる運営の方はこれからどんどん増えていく高齢者に支援していただく。

先ほど増田委員さんもおっしゃいましたが、イベントの情報一覧は、情報誌を作っていくペンに見れたらどうか。三鷹とかと違って、小金井では高齢者はインターネットではなじまないこともありますので、情報誌があったらいいと思います。

また、芸術活動を行う団体に行政から助成金があったり、発表会でも賞金を出したらどうかと思います。客観的なのですが、小金井の緑と畑を全部、まち全体に調和させるような発展があったらいいなと思います。たとえば私は美術とか彫刻が好きで、イタリヤやフランスで見た時に、本当に彫刻が自然に溶け込んでいて、日本みたいにここが彫刻展ですという感じではなかったんです。また、日常みんなが暮らしている建物自身が、まち全体を見ると日本人にはアートのように感じられた。将来はそうなればいいなと思いました。

#### **田中委員長**

どうもありがとうございました。池口さん、お願いします。

#### **池口委員**

私のポイントはこれにプラスして二つくらいあるのですが、一つ目は、商店街の話が出ましたが、まち全体が会場になるような常設展。ハード面の整備という部分ではとにかく本物を見る。それで感性が育つと思いますので、本物を見せる機会、場の設定。臨時展示会場とかも使えるのでしょうし、これから作られるセンターとか、いろいろなところで見れるようなそういう機会を作ったほうがいいかな。

本物とは？という部分では、もちろん誰かが評価した有名な方もそうだし、自分が作ったような、その人がいいなと思うものをアピールしてそれを共感できるものであれば本物なわけですよね。自分勝手な本物をそこに置くのもすごく面白いかなと思う。

ハード面の整備ということで、私はコーラスをしていて、非常に恥ずかしい思いをしている。ピアノは、いまだきアップライトを置いているような公共の練習場は、先生方が分かっている範囲では、小金井だけだそうです。

あとは、芸術家登録バンク。市民が活動するときこういう専門家がほしいとか、様々な情報がほしいとかいう時にそこに「いつでもOK」なんて言う人がいたり、「いつならOK」と言う人がいたら、すぐに使わせていただくという仕組みがほしいかなと思いました。

ハード面の追加では、障害者でも年をとっても、痴呆になっても動くための道路や交通の整備が大切かと。

あとは、ここに書いたポイントの中にも「場所を作る」とか、ココバス「芸術散策コース」とか「ナントカ散策コース」とか、そんなのも夢があってもいいかなと思います。それが、さっきどなたからか出た、観光のポイントになれば。小金井は先ほど出たように、夏に阿波踊りがありますが、私は阿波踊りより囃子が、郷土芸能夏祭りなんての方がいいなと思いました。

#### **田中委員長**

どうもありがとうございました。お待たせしました、大澤さん。

#### **大澤委員**

増田さんから先程お話があったように、私も芸術的なことを自分がお囃子で100回以上の出演をさせていただいています。小金井市は一番少ないんですけど、いろいろ他県に行って演奏させていただいています。小金井市はこんなに芸術文化が盛んと言われている街なのに、なぜ皆さん言われているようにホールがないのかというところが、一番かなしくなるところです。よそに行くとき必ずなぜこんなに人が少ない村というようなところでも、大きい素晴らしいホールがあって私達も思いっきり公演させていただいている。帰ってくるとがくんときちゃうと。その割には市長さんが必ず世界に向け、発展させてくれとか人が来るようにとかおっしゃったりするのですが、社交辞令かなと思ったりしてしまう。芸術といっても今この皆さんが集まってもらっている方と言うのは芸術に何かしら携わっていらっしゃる人で、こういう話をしてもそうだねと聞いてくださって頭を働かせてくださる方が多いのですが、実際伝統芸能とか伝承するということになると、子どもたちが継いでくれるか、くれないかということが一番肝心です。民謡にしてもお祭りにしてもクラシックにしても後継者で悩んでいるところが一番大きい問題で。うちも私も父親の代からかなり子供を継承させていくというものが本当に難しい。子供の気持ちをつかむことはすごく難しいことです。少子化と言うが子供はたくさんいる。ですが昔のお祭りとかそういうものよりも面白い娯楽の施設がかなりたくさんできてしまっていて、実際あり得ないと思っていたことが起きている。お祭りがなくなってきているのですね。国分寺でも今年2つ3つなくなったのですが、これは考えられない。昔から何百年続いてきていたものがある代の人たちによってぽんとなくなっちゃうということがあったり。悲しく思ったりしているのですが。お祭りというのは子供たちの横のつながり、仲間意識がないと言われるが、お祭りはそういうものがよそに出ていくことがあっても必ず1年一度はそこに行けば会えるという一番いい場所だと思うんですよ。今でもそうなのですね。でもお祭りがなくなって親もお祭りに参加させない。お菓子だけもらって来いという。私もそういうものに携わって催しもやっていますので思うのですが、だめだとは言えない。いろんな意味のお祭りの雰囲気も味

わってもらったりしているのですが、子供たちに見てもらわないと。いくらいいホールを作っても私たちの代で終わってしまう。ですからどういう風にして子供たちに興味を持たせるかということを考えると、一番やりたいと思っているのは学校の先生に、あとはお父さんお母さんに興味を持っていただくことが一番だと思う。私もこういうことをやっていますので場所を借りたりお話しさせてもらうがあるのですが、学校の先生が、こういうお祭りごとでも好きな人間嫌いな人間がいるんですよとはっきり言われる方もいるので、これはだめだと思ったりもしているのですが、全員が全員に好きになれということではなくて、何か言ったことがきっかけとしてね、聞いてみると私も見てみたい、やってみたいということがあると思いますので、市でもホールがなければ学校の体育館やいろんな施設があると思いますので、なかなか1日や2日では無理だと思います、いろいろな小金井に参加していただける芸能とか音楽などもいろいろあると思うのですが、架空的なものは難しいと思うのですが捨ててしまっていて、市のため子供のためを思うのでしたらかかる費用はなしにして一回市民に見てもらう。なかなか何万人と言う人に見てもらうのは厳しいと思うので、できるだけ混ぜてやればそれなりにいろんな幅の広い年齢層の方が来られることもあると思いますので、できたらそういう機会を設けていただきたいと思います。それから最後にお話しさせていただきたいのは阿波踊りなのですが。私も今年見に行かせていただいたのですが、何かこう見ていると、やっている方に怒られるかもしれないが、何かわざとらしい。ちょこっと踊ったらちょこっと休んで、なぜ小金井でやらなければならないのと、うちにもいろいろ問い合わせがあります。いろいろな郷土の芸能があるのでしたら小金井の独特のものを。阿波踊りはそれで昔からやっているものなのでそれはそれでやっていただくと思うのですが、そのあとにいろいろな小金井にある催しものがあればと思います。

#### **田中委員長**

はいありがとうございます。では最後になりました。大久保さんお願いします。

#### **大久保委員**

私は1ヶ月かなり悩みまして、悩んだものをそのまま書いてしまおうと思ひまして、最初に自分が今回策定委員として何が出来るかを考えてですね、市で公開されているものを見て、どういう方向性で小金井市が動いているかを自分なりに見たのですが。ここにちょっとあげられているので、市が発表されている第三次基本構想後期基本計画。平成18年から22年までの市政の方向性が出ているものです。この中の3番に文化と教育というところがありまして、そこで市民文化についてかなり計画が出ている。もうひとつはコミュニティについても同じく3番にいろいろ出ていまして。見ていただければわかるのですが、今皆さんが希望されているようなことが非常にきれいに書かれております。正直見て、いろいろなところに目が配られて素晴らしいという風に思っております。もうひとつは14年の

時点のものなのでかなり古いと思いますが。市民交流センターの基本構想と基本計画。それで今もう少し細かいものも拝見させていただきましたが、かなり素晴らしいんですね。私がまさに市に望みたいことが全て計画されていてその上で出ている。しかし一方で条例という本当に理念となるものが、私たちがそれを計画に移す時にある意味ジレンマがあるのです。理念より先に個々の計画が動いてしまっている。ここで私たちは条例というものがあるときに、どうやって市で計画されているものとの整合性が図れるのかなと思うことがあります。そこであえて私が挙げさせていただいたのは、この市の構想の所に、市民交流センターのところに、何かないものがあるのではないかと。構想の段階でおそらくいろんな意見が出ていると思うのですが、今書かれてはいないものを挙げさせていただきました。ひとつはサイレントマイノリティーのための芸術文化というのがありますが。サイレントマイノリティーというのは造語でして、いわゆるサイレントマジョリティーという発言しないけれど多数派というのがあります。しかし芸術文化というのは発言をしない、しかも少数派の人のためにも力になるものだと。それはひとつは芸術作品の持つ意味と書いてあるんですけど、ゴッホにしてもベートーヴェンにしても現代において作家と言われる、多くの人理解しにくいものも、比較的個人が個人に向けて芸術を作っている部分があります。ということから芸術と言うのは、社会となかなかうまく接点を持てなかったり、経済性とか優先するのになかなか対応できない、そういう方にも何か芸術が生きる力になるものではないかと思っております。そういうのがどこかに掲げられ、フォローできる体制ができればなと思っております。二つ目ですが、広く開かれた人への、芸術創造の支援と推進と固い言葉になっているのですが、一つポイントは広く開かれた人ということがありまして。今度の条例にも市民等とあるが市民と限定していない。ただ一方で不確かな情報かもしれないですが、市民交流センターは比較的市民に優先的な施設となっていると思っております。もちろん市内の団体の方に芸術の場を与えるということはもちろんなのですが、一つ理念としては、広く言及しないことによって生じる様々の効果というものもあると思っております。外の方が来て活動をして交流ができたり、逆にいえば他施設、他の小金井市以外にも素晴らしい施設がいっぱいありますので、そこにもそういう理念を植え付けていって私達も外に出て行っていろいろ活動していくことができたらなと思っております。これは先程伝統ということで大澤さんがおっしゃっていてショックだったんですけども、小金井市ではあまり機会が少ないということらしいので。もちろん小金井市の資源を守ることもありますが、それをどんどん外に出す、外のものを入れていくことで小金井市の本来持っている文化資源のよさも出てくるのではないかと思っております。

あとは非常に難しいシリアスな問題なのですがお金とのかかわりの明確な方向性がどこかできればなと思っております。ひとつは財源を確保。これは全国的に芸術においては難しいことですので、何かあらたな発想でできないかということ。あとは日本ではできているんですけど税制の優遇なんかを寄付をするときに発生すればいいなと思っております。あとは日本各地で行われている地域通貨みたいなものも芸術において小金井市を中心に何かでき

ないかと思えます。続きまして構想では市民が主体的に何か芸術活動をするという絵が描かれていますので、さらに自らの芸術活動を厳しく見守らなければいけないかなと思ひまして、より皆さんが主体的にやるということとそれまでになってしまうと。それは非常に楽しいですし非常にハッピーになるんですけど、さらに芸術でできることというのは、それを議論することによってさらなる多様な芸術活動、考え方ができるのではないかと思ひます。以上です。

#### **小柳課長**

市民交流センターの概要についてコミュニティ文化課課長補佐の肥沼の方からご説明させていただきます。

#### **田中委員長**

時間はどのくらいかかりますか。5分くらいで。よろしく願いいたします。これに関して特にあまり知識がない方、気にかかることがあれば聞いていただければと思ひます。

#### **肥沼課長補佐**

では文化施設開設担当ということで市民交流センターの開設準備をさせていただきます。

簡単にということなので、皆さんご承知かと思うのですが、現在中央線の立体交差事業の中で武蔵小金井南地域開発事業というものの中で公会堂が40年以上経つということで18年3月に閉館になったわけですが、その代替施設ということで今準備が進められています。この間につきましてはだいたい市民の方からも文化施設など議会の方に対して請願や陳情等が出されておりまして、再開発事業の中ということで平成12年度に市の方針ということの中で、代替施設、また市民文化の振興、ならびに市民主体のコミュニティ活動、生涯活動の場ということで整備が進められてきました。これが12年ですので今現在19年度に入っておりますので、この間約7年間。期間は立っておるんですが、現在どの程度進められているかという状況を見ますと、なかなかいつごろ開館というところまではまだお答えできない状況でございます。私どももなるべく早く市民の皆さんに開館できるような形で進めているところですが、やはり再開発事業の進捗状況が左右される建物になっておりますので。部分着工という形ではしていますが、議会でも議論されていますが、一部地権者の方の中で支障となる建物が立っている状況の中で、その部分が整備されれば待望の交流センターが立つのではないかと思ひます。施設の概要につきましては建築の延べ面積という面では。駐車場も含めて6427平米という形になります。施設構成につきましては市民交流の場になるコミュニティプラザ、文化ホールというかたちで、1階に市民交流ホール、マルチパーパススペース、地下に市民ギャラリーとか練習室を兼ねた会議室等も配置しまして、コミュニティプラザ、市民活動の場ということになっています。上階につきましては文化

ホール。座席数は578席でございます。1階席が392席、2階席が186、合計で578席という形になっています。なぜ約600席になるのかと言いますと、やはり興行と言うことでは座席数については1000席以上が一般的に採算制を考えれば言われているのですが、やはり私どもは基本コンセプトとしては市民中心という形の中で500席ないしは600席程度。やはり一般的に市民の方に500席を埋めるといのはかなり大変だと考えています。ですから公会堂の800席には足りませんが、市民が中心という形でいけば600席程度が妥当ではないかと思っています。1階席は車椅子用に座席を取り外すことで最大でも車椅子を16席入れられます。それから舞台の構造なのですが、やはり音楽を中心としたホールということなのですが、市民の方々にはいろいろな多彩な団体なり周辺活動等もございしますので、舞台とか演劇であると、学校の体育館なんかの舞台を見ていただければわかると思いますが、そういうものは可変でいろいろ出来るような構造になっています。それから1階の市民交流ホールは基本的には市民のコミュニティの場ということで、平土間で一部舞台がせりあがりの構造になるのですが、それで手並べになります約150席。面積は240平米くらいを確保しています。舞台を下ろしてやりますと、音楽、ミニコンサート、小規模演劇、舞台をフラットにするとパーティーとかに多種多様な使い方ができるような形に対応しています。それからそのフロアと同時にマルチパーパススペースというかなり広いスペースがあるのですが。これにつきましては絵にも書いてあるのですが、交流ホールの左側の方に、コミュニティ広場、西側から東を見たところですが、このマルチパーパススペースとコミュニティ広場の一体的利用も考えておまして、今ガラス張りになっているところが1階部分が10mちょっとありますが、それを解放する形でコミュニティ広場とマルチパーパススペース、たとえば市民交流ホールを一体的に活用することもできるようになっています。それから配置図がなくて申し訳ないのですが、地階におきましては市民ギャラリー。これは展示スペースということで、可動のパネルを設置しまして絵画の展示ができるように設置しています。面積は約140平米という形になりますが、市民の方が、商業団体でも市民グループでもいいのですが市民の方が使えるような場を設けております。それと同時に練習室。音楽を中心にしたところなので、一応若者の方から高齢者の方まで多種多様な音楽活動なり活動ができるように、4室ありますが一部間仕切りができるような形をとっておりますので、会議とか本当にミニコンサートもできるのではないかと思います。ただ間仕切り部分では音楽と会議同時使用は無理かと思っていますが。もうひとつは和室がございまして、4畳半の二間になりますが、茶道や華道の対応もできますし、一時的に保育が必要な時には活用もできると思っています。資料がなくて雑駁で申し訳ないのですが、市民交流センターにつきましては皆さんからの要望もかなり高いので、支障もある状況ではありますが、我々としてはなるべく21年度なるべく早い時期に何とかオープンできるような形で準備はしていきますけれども、何度も言いますけれど再開発事業の工事の進捗と言うことがありますので、いつオープンするという形では私どもお答えできないこともありますので、この辺はご理解いただければと思います。雑駁ではござい



すが以上です。

#### **田中委員長**

せっかくの機会ですので市民交流センターについて担当の方がいらっしゃいますから、ご質問などあればお願いいたします。

#### **大久保委員**

私たちの係わる芸術文化の振興計画が市民交流センターにどのような形で影響を与えることになるか。21年に向けて進められているということですが、それが実際にハード面やソフト面に何か影響を与える可能性はあるのでしょうか。

#### **肥沼課長補佐**

ハード面につきましてはかなり既に固まっている状況でございますので、変更は非常に難しいですが、運用面においてどのような形でできるのかは皆さん方の提案の中で検討していきたいと思っております。ハード面については、反映はちょっと。細微なものは可能だとは思いますが、大きく設計の変更を伴うものは難しいと思っております。

#### **大久保委員**

そこで条例と言う大きな理念をかかげたものに違いが生じてしまったような場合には、どのような変更が可能でしょうか。このホールのハード面は条例か何かで決められるんですよね。そうすると市の芸術文化に対する条例と、実際細かいハード面を決めていく中で理念と施設のものとの差が出た場合にはどのような形で埋めることができるのでしょうか。

#### **肥沼課長補佐**

理念というのは市民交流センターの理念もありますしこれから条例のほうに出てくるものもある。それが運用の中でどのように生かされるのかは皆さん方の提案の中で私どもが応えられるものは応えていきたい。どのような形になるかは具体的には申し訳ないのですが、答弁にお時間をいただきたい。

#### **斎藤委員**

この図面は出てこないのですか。大体固まっているという話なのですが、市報にでていましたよね。ここに出していただけると、計画を考えていく中でどこに何があるか見るとここはこういう風に使えるねとかいう話になると思っていますので。次回は是非図面を皆さんにわかるように。

### **事務局（鈴木）**

今日は急遽だったので準備できていなくてすみません。次回にはそれでは提案できるように準備いたしますので。

### **田中委員長**

市民交流センターについて図面はほぼ一応確定していると。しかしどのように管理運営していくかはこれから議論する？決まっていますよね？

### **肥沼課長補佐**

管理運営につきましてはいろいろな実施計画等がありまして、基本的な考えとしては直営と指定管理者制度、これは15年ですか、地方自治法の改正がございまして指定管理者制度の導入と言う部分もございまして、市の考えとしては基本的には指定管理者制度を導入するという形になっています。しかしこれからの運営ということの中にはやはり大きなものとして市民参加という形で、指定管理者の方には市民の育成という部分も含めまして、今後まだ指定管理者自体が公募も選考もしていませんし、そういう形にはなるのですが、そういう中に是非そういうような形で入れていきたいと思っていますし、私どももプレイベントということで市民プロデュースといワークショップを昨年度に引き続き行っておりまして、たまたま直近なのですが今週土曜に、そのワークショップ参加者の企画でジャズコンサートを東京学芸大学の芸術館を使って実施する形です。ですからそういう方達をなんとかつなぎとめてなおかつ運営の際にはそういう形で、市民参画を指定管理者と一体となって進めていけたらなと思っています。

### **田中委員長**

お忙しい所突然お呼び立て致しましてすみません。今回は図面をお持ちいただいてまたご説明いただければと思います。どうもありがとうございました。実は皆さま方からご意見がありました、今日はもうひとつプログラムがありまして、アンケートの実施。今日はこの後アンケートの実施に移らせていただきまして、皆さん方の宿題を踏まえた議論は次回にまたやらせていただければと思いますがよろしいでしょうか。それではこれから市民向けのアンケートにつきまして、皆さんに配っていただければと思います。この後、アンケートをやっていた後、感想と問題点について皆さんに指摘していただきます。それはご協力頂いております東大の小林研究室の方と少しやりとりもやっていただければと思います。ご説明はいただけますか。

### **事務局（小林）**

皆さんのお手元にアンケートを配らせて頂いております。それは無作為抽出2800人に市民の方々にお配りして、計画に反映させるためのものです。半年間、さまざまな自治体、国

のアンケートを含めて検討した最終版がこれです。先日市民講座の中でも試行版としてやらせていただいた中で、いくつか意見がでていましたのでそこをかなり検討して変えました。今あるのが最終版と言うことです。それでもう一度ここでやっていただいて、もちろんやりにくい所等があると思います。非常に重要な問題点であった場合には変更することにして、基本的にはこれで行くという形でいきたいと思っています。15分から20分くらいかかったということですので、あそこの時計で50分の段階で皆さんのご都合伺いたしますので、一度皆さんちょっとやっていただけますか。それでわかりにくいことやりにくいことなどありましたらご意見いただきたいと思っています。そのことには学生も含めてお答えできることがあればしたいと思っています。

#### **田中委員長**

途中で質問などはできますか。

#### **事務局（小林）**

とりあえずやってください。回答しながらというよりは、まずはチェックして頂いて一回は集中してやっていただきたいなと思います。

#### **<アンケート実施>**

#### **事務局（小林）**

大体50分なのですが、この時間までにできている必要はないのですが、状況を伺いたいと思います。とりあえず終わった方いらっしゃいますか、6名ですね。では何かご意見とかご感想とかたとえば内容的なものでどうしてもわかりにくいとか、これを入れたらどうかというもの、あるいは外形的なもので、レイアウトはもうちょっと幅にゆとりを持たせる予定です。たとえば3ページ目や4ページ目はかなり詰まっているように見えますので、もうちょっと緩やかにできないか等の検討をしていくつもりですが。

#### **事務局（鈴木）**

たとえば問8の設問と選択肢のページがわかれているのがすごくやりにくい。それから問15で、どのような場所かとありますが、たとえばTVやラジオという場合にはお店ではなく自宅？その辺が答えにくい。町内掲示板というものはあるし、これはチラシフリーペーパーを想定しての問15だと思いますが、そこがわかりにくいというのがありました。

#### **小柳課長**

5ページ目の問13が二つあるんですが、これは？

**事務局（小林）**

それは間違いですね。

**久保田委員**

問 15 番って駅とかなしですか。

**大久保委員**

私は駅と答えました。

**斎藤委員**

駅、バス停。

**久保田委員**

私はほとんど買物をしないんです。

**田中委員長**

買物の場所を聞きたいのですか？

**事務局（小林）**

買物の場所ではないのです。よく行く場所を知りたいんです。一般の主婦の方とか地域にいらっしゃる方が行く場所にそういう情報があるといいかなという発想で買い物の場所を聞いてみたんですね。駅は実はみんな行くだろうということもあったわけです。たとえば東京の方に出てくると駅はいっぱい来るだろう。そうじゃなくて小金井市内で活動している人がどこに行くかを知りたかったんですね。でもそういう風な疑問をもったということですね。ちょっと検討します。駅を除くと書くとかね。ほかにございますか。

**田中委員長**

3つ以内難しい。たとえば問 7 だったら当てはまるもののうちもっとも重要と考える3つとかね、書いてほしい。そうじゃないと上から3つマル付けておしまいになってしまう。ただ「最も」をつけると今度は選択する人が相当悩むわけですね。

**事務局（小林）**

そこもこちらもすごく検討したんですね。それで悩んでやめちゃって出してくれないことの方がいやだな。だからどっちをとるかは私達もすごく迷っています。

**田中委員長**

私これ先週もやったので2回目で、すらすらでしたが、1回目でやるとちょっと疲れているとぼいとかいって、もういいなという気分にはなる。

**久保田委員**

ボリュームは多いなと感じる方が多いかなという感じはしますね。

**事務局（小林）**

これでも実はかなり減らしているんですね。追跡調査がやれないので、追加で1週間前くらいに出していただきましたかというようなことがやれないので、この1回に全てがかかっているんですね。あんまり答えてくれなくてもいいから適当でもいいから出してもらおうのが大事なのか、とりあえず精密な情報が必要なのがすごく悩みどころで、これがその結果なのです。かなり選んでですね。

**久保田委員**

問7なのですが、どのような機会や制度があればということなのですが、託児所とか夜子供を預かってほしいとかいう人が多いのではないかと思うのですけれど。入れちゃうと作為的にそっちに引っ張っちゃうかもしれないのですが、需要としては夜子供を預かってくれたら出られるのにな、ということはあるのではないかと。

**事務局（小林）**

それも考えているんですね。ほかのところ、問3で。

**事務局（佐藤）**

一応、問3-2の外出することが難しいというところの中で、育児や介護で家を離れられないなどということに聞いているんですね。それはたくさんその意見が出てきたから、そこは選択肢の中に入れておく形を取らざるを得ないだろうということ。

**久保田委員**

それはこっちでカバーしているということですね。

**事務局（鈴木）**

問2が、市内と近隣と都内、後は満たされていないとなってしまうけれど、もうちょっとたとえば2番3番を一緒にして、日本の中全部とか入れないとすごく狭い所だけで満たされているということにならないか。3と4の間があるかなという気がしたのですね。2と3というのはやはりその次がほしいという気がする。東京都内多摩であれば含めれば満足の

次に近県も含めればとか。

**事務局（小林）**

でもそういうことを聞きたいんじゃないですね。

**事務局（佐藤）**

おそらくそうするとはその結果が出た時にどう使うかという問題で、日本全部で満足しているということではもういいということになる。小金井がやるときに近隣含めればということになれば、近隣の地域と連携してやればということになると思うのですが、もし日本全国となった場合に小金井と日本全国で何かやるということはなかなか難しく思う。

**事務局（鈴木）**

これを読んだ時にえーっとなったのが感想。

**事務局（小林）**

では一応検討します。ほかにありますか。

**齋藤委員**

問いの 6、芸術文化活動へのかかわりというとらえ方の中で、積極的に自分がそういうのをやっていきたい人と受動的に見たり聞いたり観客の側でいいという。それが答えの中に混ざっているので、自分は受動的でもいいという場合にも、どちら側の答えかなというのが選ぶのに時間がかかるんですね。自分が受動的と言う場合にはその系列になっていけばいいが、数が 13 とかあると、これはやる側だから関係ないなということでもっと時間がかかった。問いの設定のアンケートを取った後の使い方をどうしたいのか、狙いがわからないのでそれがその中に伏線があるならいいのですが。やる側はやっている中でおれには関係ないと思ってあきちゃうことがあるかな。

**事務局（小林）**

でも時間かけるとできます？

**齋藤委員**

2800 人にだーんと送られてきてお金もらえるわけではないというメリットがない中で、最後までねちっこくやってくれるかという面では、途中でこの 3, 4 ページが密度が濃いということにはなりそうかなと。

**事務局（小林）**

それはちょっと想定はしていることではあるのですけれども。

**大久保委員**

基本的にそれはアンケート取る側の意思が、ここまで考えているということの市民へのアピールでもあるので。不親切ではあるかもしれないんですけど作る側のアピールにもなるかなと思います。

**事務局（小林）**

すごく難しいなと思ったのは誘導しちゃいけないということなんですね。基本的に。たとえば計画をこういう風に持ってきたいと、私達そんなに明確に実は思っているわけではないのですけれども、ただやはり文化政策を研究している中でこうあったらいいなと思うのがどうしても出てしまう。それをできるだけやっぱり減らすのがすごく大変な作業だったのです。こちらの意図を明確に説明して理解してもらって答えていただくとなんかわりと答える側としてはこたえやすいのだと思うのですが、それをあえてしていないということが実はあります。社会調査の基本なのだそうですが、それが。

**久保田委員**

振興計画って何よと聞くと行政の計画とか全く知らない人とかがたくさんいらっしゃるわけですよ。そういう人たちにも計画って何よとか、計画が持っている意味って何よと思う人が多いかな。

**事務局（小林）**

そういう説明がほしい？

**久保田委員**

いや説明をするのがいいか、さらっと流すのがいいかというのはちょっとよくわかりません。

**大久保委員**

条例は添付するのですか？

**事務局（小林）**

しません。

**池口委員**

条例を入れても私はいい気がしますが。

**大久保委員**

入れない理由は何かあるのですか？

**事務局（小林）**

いや特にないのですけれども。そのパンフレット自体はそんなにないですね。それがプラスになる人とマイナスになる人がいる。条例自体、法律ですから「ああめんどくさい」となってしまう人もいると思うのですね。ただもちろん参考資料として入れるということは不可能ではないと思います。条例自体は紙一枚で入りますから。それもお意見いただければ委員会で決めていただければそれに従いますので。

**田中委員長**

計画は今策定中なのでほとんど資料はないのですが、条例は物があるので、このパンフの形じゃなくてもいいのですが、要点でもいいし、何か入りませんか。1枚ぺらでもいいし。

**事務局（小林）**

皆さんの総意と言うことであれば入れます。

**田中委員長**

では他の方がいいがでしょう。ただ条例が基本で議論して。この機会に2800人が知ってほしいとは思いますがね。

**増田委員**

条例を知らない方がほとんどだと思います。よほど関心のある人じゃないと。

**池口委員**

回収目標はどのくらいですか。

**事務局（鈴木）**

交流センターのときが30%返って来ているのです。一般的に行政のやるアンケートというのは20%いけば上出来というか、10%台くらいかなと思っているんですけど、どの程度関心を持っていただけるかなんですが。そうすると条例を入れることでかえって逆効果かなというか、かえって自分のイメージを作りにくくなってしまいうかなとも思うのですけ



れどね。目標としては20%も行けばいいと思います。

**田中委員長**

条例入れるとすればA4一枚くらいで入らないですか？裏表使えると考えれば入るし、増やして郵送料が大台に乗るとということもないですか？

**事務局（小林）**

それが実は危ないという話があって、この紙を1枚入れることで、150円が200何十円かになるのですね。

**事務局（鈴木）**

封筒は印刷にかかっているので変えられないのですね。後はこちらの印刷の紙をどうするかですね。非常に微妙なところには来てはいるのです。

**池口委員**

20%が目標ということは、その人たちは見るわけですよ。その人たちは見て納得して何か書く人が割合的には多いと思う。そうなると入れた方がやはりベターかなと思います。

**田中委員長**

20%だと500何人は見ていますからこれは大きいように思う。入れる方向で検討していただけませんか。

**事務局（小林）**

わかりました。それぐらいでよろしいですか。

**大久保委員**

1番のところと問1の4で少し感じたのが、演劇で括弧人形劇とあるのですけれど、たとえば糸操り人形とかを考えた時は伝統芸能とかどっちなのかな。一般的な演劇における人形劇ってかなり割合が少ないので、ここに入れてしまうと、小金井にある糸操り人形などを考える人が4にしまっていいのかな、むしろ6に入れてほしいと考えるのであれば。どちらなのですかね。ただ人形劇とあるとその人が4にも引張ってきってしまうとちょっと問題があるかと思ったのですが。

**田中委員長**

今回でこのアンケートについてのやりとりは終わりですか。もう今日家に帰って気付いて明日と言うことも難しいですか。

**事務局（小林）**

今週中くらいですかね。

**田中委員長**

では委員の方々お気づきの点は今週中であれば鈴木さんの方にいただければと思います。次回は今日皆様方にやってきていただいた宿題のご報告を踏まえてフリートーキング議論を自由にやっていただきたいと思います。小金井市の文化行政の現状と、次回フリートーキングにするならこれは次にします。次回は先程の市民交流センターの図面による説明もありますので、来週はその図面の説明と自由討論をやらせていただければ、時間的にはいいかなと思います。では事務連絡をお願いします。

**2. その他（連絡事項等）****事務局（鈴木）**

すみません日程の変更だけちょっとお願いしたいのですが、前回芸術文化市民講座のご案内をしたのですが、その3回目の12月8日の津村禮次郎さんの回なのですが、津村さんのご都合で1週遅らせてください。12月15日土曜日の14時から15時30分までということです。この講座はどの回も余裕がありますのでご都合がついたら参加できる方がいらっしゃいましたら是非いらしてください。その際にはご連絡いただくと助かります。それから議事録は次の回に完成版をお渡ししますということでお話したのですが、それだと日程が詰まりすぎているので、今日みなさんが赤を入れていただいたものをお持ちいただいていると思います。次回に完成版をお渡しします。今日の分は次の会議の1週間位前には校正分をお送りします。次の時に赤入れしてもらったものを持ってきていただいて、その次の回に完成版をお渡しするという日程にしたいと思います。お送りした原稿は赤があってもなくても次の会議に持ってきていただくということをお願いいたします。

**田中委員長**

次回は11月15日になっておりますので日程をご確認いただければと思います。本日はどうもありがとうございました。